

---

---

フィールドワークに基づく下北音楽クラスター論

指導教授 矢作敏行教授

2008年度法政大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了

マーケティング・サービスマネジメントコース

渡邊 ヒロ子

本研究は、産業クラスター論の視点から街の商業集積を俯瞰してみることで、クラスターの範囲と機能、そして形成の要因と発展プロセスについて明らかにすることを目的としている。

対象としたのは東京の新興繁華街として発展を続ける下北沢で、街の発展の原動力となっている下北沢の音楽クラスターに焦点を当て、商店街の集積のなかに音楽クラスターが発生し、変容し、今日に至ったプロセスを、現地でのフィールドワークに基づき分析する。その結果は、あらまし以下の通りである。

クラスターの範囲については、従来の商業集積の視点では捉える事の出来なかった業種、具体的にはアーティストやプロダクション、レコード制作会社、音楽配信会社などが下北沢の商業集積内にあるライブハウスと密接なネットワークを形成し、下北沢という「場」において「下北音楽クラスター」と呼ぶ事のできる柔軟な補完関係を実現していることが明らかになった。また、ライブハウスが「表の場」とすれば、集積内の飲み屋や美容室などの店舗が音楽活動における知識やアイデアの交換、共有そして新しい価値創造のための「裏の場」として日常的に重要な役割を果たしていることがわかった。

次に、発生と発展のメカニズムについては、初期条件としては下北沢の「街の資源」である「異質性を受け入れる土地柄（多様性を担保する寛容性）」や「文化性」、「経済性」などが重要な働きをし、それにより多様な人材を街に惹きつけてきたことがクラスター形成の引き金となった。

下北音楽クラスターはある時点で大きく変化し、拡大している。クラスターがそのように大きく変化する転換点に現われて、触媒機能を果たしている一群の人々がいた。彼らは、イベント開催や事業拡大などの転換点において「表」と「裏」のそれぞれの「場」で人的ネットワークを組み換え、新しいつながりを作り出す「ネットワークコーディネーター」である。「ネットワークコーディネーター」は異質な街の要素や見知らぬ人々を結びつけ、新しい街事業を創造する。その結果、クラスターは既存の限界を突破して、さらなる発展を遂げる「ランプアップ」(変換)効果を実現する。また、商店主とアーティストといったつながりの弱い異質なプレイヤー同士をつなぎ直すことで、クラスター内で生じるコンフリクトを緩和する働きがあることも知見として得られた。

最後に、発展メカニズムの観点から、下北沢の発展プロセスを分析した。各発展段階は種まき期、発芽期、生育期、開花期、そしてまた種まき期へと移り変わり、それぞれの「転換点」に対応する「ネットワークコーディネーター」の組み合わせは「下北沢音楽祭 = 若き飲み屋の有志」、「音楽関連産業の多店舗・多角化経営 = 多店舗・多角化経営をする企業

家」、「インディーズの全国レベル展開 = インディーズレーベルとアーティスト」となっており、段階を追うに従い外部への発信機能が強まり、下北沢のブランド化を強化する結果となった。

本論文の意義は商業集積にクラスターという視点を適用することにより、商業集積のダイナミックな広がりを発見するとともに、新しい価値創造のコミュニティとして機能する表と裏の「場」の存在を確認できたことと、またクラスター発展の基本的なメカニズムを理解できたことである。これらは実務にとっても大変有意義なものであると考える。